

開催地名：神奈川県南足柄市	
開催日時	令和5年1月14日（土） 14：00 ～ 15：30
開催場所	南足柄市文化会館
語り部	菊池 健一 （宮城県仙台市）
参加者	市民、自主防災リーダー 約 140 名
開催経緯	当市においては、自主防災リーダーに対し年2回の各種講演等教育を実施し、防災意識の高揚に努めているところである。近年大規模な災害を経験していないことから、災害経験者より実体験の講演を受け、市民に災害の実情を理解していただきたい。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>東北地方は非常に地震が多い地域であり、特に宮城県など太平洋沿岸地域については、過去に幾度となく地震や津波の被害を受けてきた。1896年（明治29年）にマグニチュード8.5の明治三陸地震、1933年（昭和8年）にマグニチュード8.1の昭和三陸地震、1978年（昭和53年）に宮城県沖地震、2003年（平成15年）に宮城北部連続地震、2005年（平成17年）に宮城県沖地震を記録している。1978年の宮城県沖地震では、死者28人（ブロック塀などの下敷き18人を含む）、負傷者1,325人、建物の全半壊7,400戸、停電70万戸、断水7,000戸という多大な被害が生じた。特徴の1つとして、ブロック塀倒壊の多発が挙げられ、このブロック塀の倒壊によって18人の子供が犠牲となった。この地震は、当時の人口50万人以上の都市が初めて経験した都市型地震の典型と言われ、この地震を契機に、宮城県では自主防災組織を各町内会に設置する動きが起り、1995年の阪神・淡路大震災以後、この動きは加速した。</p> <p>（2）東日本大震災時の状況について</p> <p>地震発生時、私の自宅がある七郷地域は震度7の烈震で、4～5分ほどすごい揺れが続いた。仙台市では11.5メートルの津波の被害を受けた。海面が11.5メートル高くなった状態で海水が押し寄せ、海岸から3キロ以上内陸まで浸水した。県警への避難指示を聞き、3つの町内会を走り、周辺住民に津波から声をかけてまわった。町内会では、大規模災害に備えて毎年避難訓練を行っていたが、東日本大震災ではほとんど役に立たなかった。激しい揺れに動揺する中、道路は寸断され、携帯電話、固定電話ともつながらないため、火の始末、出口の確保、家族への連絡、周りの人の安否確認等、身を守るすべてのことができなかったからだ。</p> <p>避難所への避難についても、速やかに移動できない人たちが目立った。貴重品を探していたり、貴重品を置いていくことに抵抗を感じて避難を拒んだりする方もいた。人命第一（余震が続き、津波の可能性大、いち早い避難が必要）であること、電気・水道・ガス等のライフラインが止まっている中で高齢者の独り暮らしは難しいこと、避難を支援する住民の二次災害を避ける目的から、毅然とした態度で避難を求めることが必要である。また、夜間はどうしても周囲の目が届かないので、自警団を編成して区域のパトロールを行った。</p>

避難所の運営についても、スタート時点からうまく機能はしなかった。運営を阻害したものとしては、情報の不足、燃料の不足、通信手段の不足の3つがあげられる。また、1つの避難所に8つの町内会が集まっており、町内会ごとでは避難訓練を行っていたが、合同では実施していないため連携がうまくいかず、運営に支障が出た。地震4日目まで物資が届かなかったことも不安をあおった。対策として、町内会長を中心とし、町内会ごとにまとまってコミュニティ最優先の運営を進めた結果、人員の掌握及び情報・伝達等の迅速化に効果があったとともに、避難者個々の不安の軽減につながった。

(3) 避難所の状況と、避難生活から得た教訓

長い避難生活を考え、町内会の主要な役員を核とした組織編成を行ったが、組織に対する不満、顔見知り同士の派閥、プライバシーのない集団生活でのストレス、ペット問題、ボランティア団体の過度な訪問など、避難所生活では対処すべき課題が絶えなかった。原因の1つとして、津波避難と防災訓練は行ってきたが、「避難所運営訓練」を全く行っていなかったことがあげられる。今後の防災対策では、行政、町内会、民生委員等との連携の強化（指揮系統を通じた行政と地域との情報の共有）、地域、行政、学校との積極的な訓練の実施（早朝・夜間の実施・避難所運営訓練など）の実施を是非検討していただきたい。

また、避難所での最低限の安心・安全の確保と、災害リスクの高い方（高齢者や障害をお持ちの方、乳幼児をお持ちの家庭）の生活上の配慮などを考慮するとともに、東日本大震災時の避難所では女性への配慮に欠けた事例が多く見られたことから、女性の視点から意見を言える女性防災リーダーの養成と、話し合いの場への女性の積極的な参加を進めていただきたいと思う。



開催地より

東日本大震災時の実体験に基づく避難所運営についてのお話を、非常にわかりやすくご説明いただいた。本日聴講した自主防災リーダーをはじめとする市民の方々も、具体的なイメージを持つことができたと思う。当市では今日の講演をふまえ、防災対策の促進を進めていきたいと思う。